

第 37 号

2016年(平成28年)2月15日
発行 岩国市議会

〒740-8585
山口県岩国市今津町一丁目14番51号
TEL (0827) 29-5190
FAX (0827) 21-1001
URL <http://www.iwakunishigikai.jp>

編集:いわくに市議会だより編集委員会
印刷:フジ美術印刷株式会社

☆ いわくに 市議会だより



わがまち 歴史めぐり

岩国市内各地の
歴史・文化を
シリーズで紹介します。

▲ 柏岩(美川町)

嘉吉元年(1441年)の洪水の時、郷士片山左近将監ごうし しょうけんという人が、網で神像をすくい上げた。将監は、この神像を柏の葉を川に流して止まったところに祭ろうと考えた。そのとき、柏の葉が止まった所の岩は柏岩と呼ばれ、美川小学校(旧桑根小学校)内にある。(南桑河内神社の由緒書より)

▶ 由宇代官所跡(由宇町)

岩国藩の出先機関として、正保年間(1645年～)より柏原かしわばら(現横町)に設置された。由宇組代官所は、近郷11か村1島(海土路・藤生・黒磯・青木・保津・通津・長野・由宇・日積・神代・大畠・柱島)を支配した。(ゆうの史跡・文化財めぐりより)



主な内容

12月定例会のあらまし…………… 2
一般質問…………… 3～7

常任委員会審査報告…………… 8～9
議会構成の紹介…………… 10

12月定例会のあらまし

12月定例会が11月26日より12月21日までの26日間の会期で開催されました。今回は、年明け早々の1月24日の市長選挙を控え福田市長の今後の行政運営や課題事項の解消策等の質疑のため、26人の議員が登壇し4日間にわたり一般質問を行いました。

議会初日には、監査報告3件、平成27年度一般会計補正予算や11特別会計補正予算、新築中のいわくに消防防災センター内の岩国市防災学習館条例、文化芸術振興のための岩国市文化芸術振興条例、横山地区に新設の岩国シロヘビの館条例、農業委員会制度改正に伴う岩国市農業委員会の委員及び農地利用最適化推

進委員定数条例など5件の条例制定議案、5件の条例改正議案、1件の請負契約変更議案、1件の財産処分議案、3件の指定管理者の指定議案、1件の規約変更議案が上程され、議案は各常任委員会に付託されました。

議案については、各常任委員会では審議をされ、最終日の21日本会議において各常任委員会委員長よりの審査報告の後、岩国市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員定数条例制定については、討論の後、採決の結果賛成多数で可決。その他の議案については全て原案のとおり可決し閉会しました。



12月定例会

岩国市議会ホームページのリニューアルのお知らせ

市議会ホームページでは、定例会のお知らせ、各議員の紹介、議会構成など市議会の情報を掲載しています。

また、会議録検索システムも導入していますので、会議録データの中から必要な情報、必要な箇所を検索することができます。どうぞご利用ください。
(ホームページ編集委員会)



☆ホームページのURLは
<http://www.iwakunishigikai.jp> です。



総合支所

一般質問
市政を聞く

12月定例会では、
26人の議員が登壇しました。
総合支所、ごみ対策など
69項目にわたる質問が
展開されました。

両施設とも市民に喜ばれる複合施設に

河合 伸治 (公明党議員団)

問 総合支所・支所の整備について基本構想が示された。両施設については、行政のワンストップサービスの実現と、公民館機能等を合わせた市民の皆様には喜ばれる施設として建設を進めてほしい。整備方針について問う。

答 両施設の整備にあたっては、ワンストップサービスの充実に努め、ユニバーサルデザインを基本とし、エレベーターや多目的トイレの設置、総合支所・支所機能はもちろん、市民活動・交流活動・防災機能も併せ持つ施設とする。

玖珂支所については、支所の整備にとぐまらず、コミュニティや図書館機能も併せ持つ施設とする。
(総務課)

福田市政

教 育

新時代の英才教育について問う
市有財産を活かし取り組む

前野 弘明 (市政クラブ)

問 地方創生は地域独自のまちづくりを目指している。人は自然環境と社会環境で育つもの。岩国が持つ自然と歴史は、多くの人材を育ててきた。新時代の教育は、良心の涵養を目指すことであるが、岩国の環境資産を充分に活かし、自然の摂理と、過去に輩出した偉人とその織りなした歴史を知ることが、英才教育の要となるべきである。そのための教育者、牽引者が必要であると思うがどうか。

答 自然の摂理に学んだ公園づくりを市民ボランティアと協働で行っていきたい。廃校などを芸術家の活動拠点としても検討したい。錦帯橋大工技能者の養成に取り組んでいるし、学芸員増員も必要になると考えている。
(公園みどり課・文化振興課・錦帯橋課・文化財保護課)

福田市長の政治姿勢と政策について
安心安全対策と地方創生に全力を尽くす

阿部 秀樹 (憲政会)

問 基地との共存を掲げる福田市政。米軍再編に向けて準備が進む中、附属施設の野球場や陸上競技場建設が実施段階に有る事を考慮すると、現に艦載機の受け入れを容認している状況にある。現実的な対応をすべきと思うが、市長の考えを問う。

また、地方創生に描いて全国初の議会提案を受けて、岩国市の市長の公約として取り組むか合わせてお聞きする。

答 米軍再編は沖縄の解決や安心安全対策が確認出来るまで容認しない。また、地方創生については全力で岩国のまちづくりに取り組む。
(政策企画課・基地政策課)

医療センター

全会一致で採択された医療センター跡地対策について
請願の趣旨を踏まえ引き続き努力する

大西 明子 (日本共産党市議員)

問 平成24年11月27日岩国医療センター跡地対策を考える会から三項目にわたって請願が提出された。請願趣旨は、岩国医療センターの愛宕山移転に伴う藤生以南の灘地域の医療の空白をつくらぬように、医師会などの協力も得ながら早急に内科・整形外科を中心とした医療施設が整備されるように政策を講じてくださいという内容で、12月20日全会一致で採択された。すでに三年が経過しており進捗状況を問う。

答 山口県や岩国市医師会に対して黒磯地区の医療の確保について情報収集に努めている。黒磯地区への開業を検討いただくよう引き続き努力をしていきたい。
(拠点整備推進課・地域医療課)



竣工間近のいわくに消防防災センター

水道事業

問 由宇地区給水事業は、平成19年度より事業が開始されているが、事業を計画するに至った経緯と完成後の効果はなにか。また、完了予定はいつごろか。

答 由宇川の水质悪化の懸念や水量が不安定な状況であったことから、合併を機に錦見浄水場から牛野谷配水池、黒磯配水池を経由して、由宇地区の配水池へ送水する計画である。効果としては、安全性、信頼性の高い給水を行うことにより、安心で安全なおいしい水を安定的に供給できる。なお、完了予定は当初平成27年度としていたが、新たな統合配水池の築造などの変更により、平成29年度末の完了予定である。(水道局)

由宇地区給水事業の経緯と効果は何か
由宇地区への安全性、信頼性の高い給水

石原 真 (清風クラブ)

玖珂支所

問 玖珂支所の建設に関して、必ずしも地域の懸念が解消されていない中で基本構想が策定されたが、建設予定の玖珂支所の概要を問う。

答 新たな玖珂支所は、市民サービスの向上を図るためワンストップサービスを充実させるとともに、公民館機能をも併せ持つ複合施設として市民活動の拠点となる庁舎とする。また、健康推進活動の中核を担う保健センター機能や食推・母子推活動機能を併せ持つ施設として整備する。新たな支所の組織体制は地域振興、市民福祉、農林建設など課長等の管理職は減り、支所長を課長職とした班体制となると考え、行政機能は現行を維持したい。(総務課)

玖珂支所建設構想の概要を問う
行政サービス低下のないものとする

植野 正則 (新和会)

予防接種

問 子どもを対象とする季節性インフルエンザワクチン接種費用の助成を実施できないか問う。

答 接種を行うことでインフルエンザの発病や重症化予防が図られ、インフルエンザのまんえん防止につながることも期待されている。しかし、一方で、季節性インフルエンザワクチンの予防接種は、現在、個人が任意で行う予防接種とされており、保護者の方に接種費用に係る経済的な負担が生じていることも承知している。このような状況をしっかりと踏まえ、現在岩国市としては平成28年秋からの助成制度導入に向けた準備をしていく。(健康推進課)

インフルエンザワクチン費用の助成は
平成28年秋から助成制度を導入する

山本 辰哉 (清風クラブ)

医療センター

問 岩国医療センターは開院して3年目を迎えたが、本館や駐車場、住宅や看護学校などその敷地の全ては岩国市の所有である。早急に医療センター側が然るべき価格で取得すべきだ。過大な便宜供与の現実だが、来年度以降もこうした状況を継続するのか。その現状と今後の見通しを問う。

答 岩国医療センターは本館施設用地と外来駐車場、看護学校用地を無償で、職員駐車場と官舎用地、官舎駐車場は有償で貸し付けている。これらの用地は黒磯町の旧病院跡地の売却益で取得されることとなっているが、これが実現するまでは今後も現状の条件で貸付けを継続する方針としている。(拠点整備推進課)

岩国医療センターへの市有地貸付け状況は
本館用地は無償、駐車場等も現状通り貸し付ける

田村 順玄 (リベラル岩国)

高齢者福祉

問 高齢者虐待について施設等での事件が報道される事は多いが、家庭内での虐待も増加している。介護世帯の孤立、介護疲れと孤独介護に伴う離職による生活苦などの要因が重なり虐待につながる。介護者を含め虐待防止を考える必要があるが市の取り組みを問う。

答 虐待防止に関係者の連携体制の充実が重要であり市報や市政番組で啓発をし、直接接する機会が多い方などに重点的に行っている。適切な時期に適切なサービスを利用でき、認知症の知識と理解を深める為の普及啓発と相談しやすい体制づくり、相談窓口の周知に努めている。(介護保険課)

高齢者介護を含む虐待防止について
相談窓口の周知、体制の充実を図る

中村 豊 (公明党議員団)

防災協定

問 「安心・安全対策」として米軍岩国基地との共存の中で、自然災害に対応する防災協定の締結が早期に望まれる。締結の可能性と現状について問う。

答 大規模災害の発生時には、米軍への応援要請を必要と考えている。現状の岩国市、及び岩国地区消防組合と米軍岩国基地との消防相互応援協定の見直しの必要性についても関係者と協議している。相互の防災協定として様々な災害を想定して、締結できるように努める。締結時期としては平成28年度中を目指して協議していく。(危機管理課・基地政策課)

米軍岩国基地との防災協定締結について
防災協定は平成28年度中の締結を目指す

片山 原司 (新和会)

空 港

岩国錦帯橋空港促進費について

「オンライン」や「テーマ性」を持って取り組む

広中英明

(市民クラブの根)

問 岩国錦帯橋空港促進費のうち「子育て応援、シニア元氣作りキャンペーン」などとして、旅行費用の助成をする事について、ただ単に空港利用者を増やす目的だけの取り組みではなく、経済効果、観光促進、岩国PRなど岩国市の利益につながり、多くの市民の理解が得られる取り組みでなければいけない。今後の取り組みを問う。

答 議員提言の錦帯橋やカープ2軍練習場などの岩国市の「オンライン」や「テーマ性」に特化した魅力ある滞在型の旅行造成を行い、周辺地域の観光地との連携を図り、積極的に誘客を図って参りたいと考えている。(観光振興課)



岩国錦帯橋空港100万人達成

健康づくり

健康マイレージ制度の導入について

制度を充実させ健康づくりを推進

越澤 二代

(公明党議員団)

問 市民の健康は個人にとっても岩国市にとっても不可欠なものである。健康づくりを推進する「健康マイレージ」は健康診断の受診、運動、食事等健康を維持していくための取り組みをポイント化して、貯まったポイントを協力店でサービスや特典が受けられるユニークな取り組みである。医療費の削減や要介護状態にならないような効果が期待できるよう市民総出での取り組みが必要である。推進体制や協力店の拡大等岩国市独自の内容の充実を問う。

答 市民が継続して主体的に健康づくりに取り組めるよう市独自のマイレージ制度充実のため環境整備に努める。(健康推進課・介護保険課)

上 水 道

水道未給水地域の整備の検討は
千束地域の整備を検討

藤本 泰也

(憲政会)

問 光地域広域水道企業団解散後の玖珂、周東地域の水道整備計画では、整備目標年度が平成34年度としており、平成31年度より中山川ダム水利権を利用した給水を開始する計画となっているが、どのように進めていくのかを問う。

答 今後の具体的取り組みについては、すでに整備された水道給水地域に隣接する未給水地域についても、水道整備に向け検討したい。今後とも総合支所や水道局と連携し水道需要向上のため対象地域への水道整備に関する正確な情報を提供してまいります。

(環境保全課)

総 合 支 所

玖西2支所に道路維持班の配置を
必要性は認識して配置を検討

渡辺 和彦

(市政クラブ)

問 合併から10年を経過したが、周辺部は道路等の管理不足が多く見受けられる。過疎高齢化で自治会の道路管理の草刈り等も限界にきている。周東・玖珂総合支所管轄に技能労務職員(維持班)の1班体制の配置をすべきと考える。玖北の2総合支所にはすでに配置を行っており、玖西地域も同様な配慮をするべきではないか。

答 錦・美和総合支所はすでに配置をしていることに鑑み、玖西地域においても必要性は認識している。総合支所の統合計画との整合を図りながら出来るだけ早く配置を行う。(道路課・職員課)

基 地

オスプレイの飛行禁止を求める
飛行規則は守られている

山田 泰之

(日本共産党市議団)

問 オスプレイはオートローテーション(自動回転)機能が欠如しており、墜落の危険性は極めて高く、日本の航空法では自動回転できないヘリの飛行は禁止されている。日本国内での飛行訓練は中止を求める。

答 市街地上空を飛行することは確認されており、日米合同委員会で合意された飛行規則が守られている。(基地政策課)

政 財

今後の財政運営について
 新たな総合計画に沿って効果的に推進していく

松川 卓司 (憲政会)

問 今後、岩国市の歳入は横ばい、または微減と予想されるが、十年後2025年には「団塊の世代」が後期高齢者となり社会保障費が増大する。また、老朽化した公共施設の維持管理、更新費も必要であり厳しい財政運営となるが、その見通しと対策について問う。

答 今後の財政見直しは、厳しいものが予想されるが、将来の負担軽減を堅持しながらも「新たな総合計画」に沿って、まちづくり施策を必要性、有効性等により優先順位を付けながら推進する。また、財政計画の見直しを検討するとともに、「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組み、財政基盤強化に努める。(財政課)

都 市 緑 化

都市緑化事業(街路樹について)
 問題点を整理し植え替え等検討する

広中 信夫 (憲政会)

問 都市の美観の向上や道路環境の保全、歩行者に日陰を提供する等の目的で市民の為に植樹されるべく街路樹が、これまでの都市緑化の将来設計の誤りにより、落葉の大量発生、道路標識・防犯灯の通行上・防犯上の支障、根っ子による歩道段差での安全歩行の支障、落葉による排水樹詰まりでの大雨時冠水の危険など多くの弊害を生んでいる。市内1470本の維持管理に毎年1600万円の税金が使われている。今後の対応を問う。

答 現在策定中の「みどりの基本計画」の中で問題点を整理し、地域に相應しい樹木の植え替え等、整備の基本方針を検討していく。(公園みどり課)

地 域 住 環 境

市内のごみ屋敷の状況について
 問題の根本的な解決に向け努力

三原 善伸 (親政会)

問 市内でごみ屋敷と呼ばれるような建物の存在状況と近隣住民からの苦情への対応状況はどうなっているのか。また、先進地に倣った条例設置は考えないか問う。

答 現在市が把握し、対応中の案件は8件ある。近隣住民や自治会長等から相談があった場合は相談者と現地調査を行い解決可能な方策を検討すると共に原因者に改善を申し入れている。条例設置については東京都足立区や京都市等が制定している。今後こうした自治体の制定に至った経緯や運用実績の調査等行いごみ屋敷問題の解決に向けたより有効な方策を研究する。(環境保全課)

地 域 農 業

農業担い手組織の経営強化について
 地域農業の中心的経営体の育成を積極的に行う

片岡 勝則 (新和会)

問 担い手組織の経営は、水稻栽培が中心であり、昨今の米価の下落等により、その経営は非常に厳しいものがある。安定経営のためには、施設園芸作物等の導入が必要であり、その栽培のためのビニールハウス等の購入費助成が必要と考えるが如何お考えか問う。

答 TPPの影響も懸念されることから、野菜などの他の作物との複合経営も考慮して行く必要がある。効率よく収益をあげる儲かる農業への転換が必要である。農地の集積等と合わせて支援を行い、地域農業の中心的経営体の育成を、積極的にやりたいと考える。(農林振興課)

国民健康保険

国保料の引き下げに本気で取り組み
 医療費が伸びており大変厳しい

小川 安士 (日本共産党市議員)

問 経済発展が続く、貧困は解消するようになる考えが広がっていたが、最近の状況は全く違う。住民のくらしは以前より悪化し、国保料がこんなに大きいのは異常だ。国保やその他の福祉施策の強化を国に求めるとともに合併前より減少している一般会計からの繰り入れを強化し、国保料は引き下げるべきではないか。

答 国保は平成30年度から、県と共同で管理するようになるが、画一的な減免は不適切とされている。国保加入者は、年令上、医療費が高く平均所得が低いいため、保険料の負担が大きい。適切な運用を続けたい。(保険年金課)

雇 用 対 策

岩国市の雇用対策について
 ハローワークと連携し雇用を努める

重岡 邦昭 (市民クラブ、岩の根)

問 平成29年度には愛宕山の米軍住宅建設等臨載機移転受け入れ工事が終わる。平成9年に着工した滑走路移設工事から約20年間継続した工事である。基地拡大に向け投入された防衛事業費は総額約7100億円であった。問題は工事完了後に押し寄せる岩国市の景気の冷え込みである。については、岩国市から関連企業の撤退、或いは、従業員削減が及ぼす景気対策を問う。

答 在日米軍再編に伴う工事が終了し、その後の景気や国県市が行う公共工事の発注状況や市内建設業の状況を踏まえた上で、ハローワークと連携して雇用対策に努めていく。(商工振興課)

ご み

**中・小のごみ袋も厚い品質に変更を
中袋を今より2ミクロン厚くする**

坪田 恵子 (日本共産党市議員)

問 昨年、多くの市民から要望があった可燃用大のごみ袋が破れにくい品質に変わり「袋の補強をせずに、枝が捨てられる」など喜びの声が寄せられている。一人暮らしが増える今、大袋は使われない人も多く、「中・小袋も厚くして」との声がある。全てのごみ袋を大袋と同じ25ミクロンに改善することを求める。

答 市民が使い易いという思いから可燃用中袋を20ミクロンから22ミクロンに変更をする。コストやごみの重量の増加を抑えた改善として、現在の原料に低密度ポリエチレンを混合し、破れにくい袋にするのを検討している。
(環境事業課)

観 光

**PR促進には新しいイベントも必要
市民が喜んで頂けるものを実施したい**

丸茂 郁生 (清風クラブ)

問 新しいイルミネーションのイベントとして、例えば市役所敷地内の広場をイルミネーションで華やかに飾り、庁舎の壁面に巨大なプロジェクションマッピングを施す。市役所から岩国駅周辺までをイルミネーションで飾りつけ夜景演出することで地域の活性化に繋がる。子ども達はまちいっぱい夢のイルミネーションを楽しみにしている。多くの子ども達の夢を叶えられないか。

答 子ども達の様々な夢を叶えていきたいと思っている。市役所の公園の大きなくすの木があるのでイルミネーションについても検討してみたいと考えている。(総務課・観光振興課)

教 育

**基地の街の特徴を生かして英語教育環境の充実を
英語に触れ、学べる機会を積極的に構築したい**

桑田 勝弘 (公明党議員団)

問 岩国市総合計画に基地との共存を明記した。本市は基地内大学、青少年海外派遣事業等の施策を実施しており、総合戦略にも登載した。基地の街のメリットを生かし積極的に英語教育環境の充実を図ることが重要であり、嘉手納町立外語塾のような拠点を創設し、ソフト事業を集約すべきと考えるがご所見を問う。

答 「基地との共存」を考える時、基地のある街の特色を生かし、国際感覚を磨くために、学生や社会人が英語に触れ、学べる機会を積極的に構築したい。他市の事例も参考にし、何ができるかを検討し、実践したい。
(市民協働推進課・生涯学習課・商工振興課)



岩国観光プロモーション戦略協議会

ふるさと納税

**ふるさと納税の取組について
若手職員の起用も考慮する**

武田 伊佐雄 (憲政会)

問 ふるさと納税については多くの所管に関わる事が考えられるが、市長直轄で若手職員のプロジェクトチームを作らないのか。

答 これまでも二度ほど若手職員のプロジェクトチームを立ち上げて若い観点からの提言を頂いた事もある。全ての提言が実現された訳ではないが、前回行ってから一年が経過するので再度若手チームを結成してもよい。斬新なアイデアを提言し実現していくことにより職員の士気も上がるだろう。そのような取組は今後も進めて行きたい。(市民協働推進課)

農業委員会

**法改正に伴う農業委員会の組織等について
新たな組織で農地の最適化を推進する**

藤重 建治 (憲政会)

問 来年4月から施行される農業委員会等の法改正で、農業委員は公選制から首長が議会の同意を得て任命することになるが、農業委員のほかに、農地利用最適化推進委員の新設が予定されている。

これらの役割及び委員会と市長部局との連携について問う。
答 来年の法施行日までに、24人の農業委員及び52人の農地利用最適化推進委員が選任される。委員会の事務の重点化と、農地等の担い手への集約等、農地の利用最適化に向けて、市長部局農業担当部署と連携しながら、取り組んで参る。
(農業委員会)

議案第113号 平成27年度岩国市一般会計補正予算(第2号)

問 岩国錦帯橋空港利用促進費の広告料と委託料の詳細及び今後の予定について。

答 空港の発着枠について、現在の4便に加え、羽田の1便、沖縄の1便の追加を要望している。現時点では、日米合同委員会での合意はなされていないが、合意後速やかに対応できるように今回補正をお願いするものである。当該促進費の実施時期及び内訳については、2月下旬から夏ダイヤに切り替わる3月末までの間、テレビ・ラジオのCMや新聞などの広告並びに、広告デザイン料やPR映像作成費、ポスター、チラシの作成等を考えている。

問 岩国観光プロモーション戦略協議会が設立されたが、今回の補正との関連について。

答 この協議会は、市内に5カ所ある観光協会と、商工会議所などで組織し、一体的な観光推進体制を構築していくことを目的とし設置したものである。現在、ANA総合研究所から、観光戦略マネージャーを招聘し、その支援員2名とで体制基盤づくりを行ったものである。今回の増便に関して、就航先の選定や、効果的な広告の手法などにおいても、マネージャーのご意見も参考としており、官民一体となった取り組みを実施してまいりたい。

問 3000万を予算化するにあたり、空港の利用促進だけでなく、本市に効果的となる施策にするべきではないか。

答 空港の利用促進だけではなく、将来を見越した地域経済の活性化、観光交流人口の増加等、地元潤いをもたらす施策への展開をすべく努力してまいりたい。

結果：全会一致で可決

その他、経済常任委員会に付託された事件のうち、議案第129号については賛成多数で可決、その他の議案については全会一致で可決すべきものと決しました。

経済

委員長 藤本 泰也
副委員長 松川 卓司
委員 阿部 秀樹
貴船 斉
桑田 勝弘
坪田 恵子
細見 正行
山本 辰哉

議案第127号 岩国シロヘビの館条例

問 施設名称について、どのような考え方で決定したのか。また、施設に親しみをもていただくため、公募により愛称を募集する考えはないか。

答 条例での名称は、建設場所が吉香公園内であること及び当該施設が米蔵をイメージして建設されたことから「岩国シロヘビの館」とした。愛称については、施設開館後に改めて募集する。

問 開館前にしっかりとPRすることが重要であり、愛称の募集は早急にとりかかるべきではないか。

答 本館は全国でも唯一のシロヘビの資料館としての位置づけもあり、展示内容についても種々検討したものである。子どもたちをはじめ市民や観光客の方々に、広く関心を持っていただく意味からも、できるだけ早い時期に愛称の公募を行いたい。

結果：全会一致で可決

その他、教育常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。

教育民生

委員長 大西 明子
副委員長 武田伊佐雄
委員 石本 崇
片岡 勝則
中村 豊
広中 英明
丸茂 郁生
渡辺 和彦

議案第113号 平成27年度岩国市一般会計補正予算(第2号)

問 愛宕踏切は、幅員が狭く、歩道も整備されていないことから、非常に危険な箇所である。時間帯によっては、多くの児童、生徒や通過車両等で、離合することも難しい場合もあることから、周辺に待避所を設けるなどの道路改良を早急に行うべきではないか。

答 踏切部分を含めた道路の整備計画を定めたくうえで、早急に着工ができる手法がないか、今後検討してまいりたい。

問 市道において、地盤沈下や管の埋設工事等の補修個所に段差が生じ、そこを大型車両などが通過した際、低音振動が発生する恐れがあり、そのことで沿線の住宅の壁に亀裂が生じるといった事例等を把握しているか。また、その場合の対策はどのように考えているか。

答 大型車両等が不陸路面を通過した際に、振動等が生じているとの報告は受けているが、それにより家屋の壁面等に亀裂が生じたとの報告は受けていない。もし、そうした事例があれば、事実確認の後、因果関係を調査し対応を検討してまいりたい。

結果：全会一致で可決

議案第128号 岩国市空家等の適切な管理に関する条例

問 条例に規定されている緊急安全代行措置については、市民の生命、身体または財産を保護するために、空家等の所有者等の同意を得て、措置を講ずることができることとされているが、所有者がいない、あるいは見つからない場合には、どういった措置がとられるのか。

答 登記簿や住民票を調査しても、なお所有者を確知できない場合は、空家等対策協議会に諮ったうえで、事前の公告後、市の経費において略式代執行を行うことができる。

結果：全会一致で可決

その他、建設常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。



委員長 石原 真
副委員長 三原 善伸
委員 植野 正則
桑原 敏幸
越澤 二代
田村 順玄
松本 久次
山田 泰之

議案第125号 岩国市防災学習館条例

問 他都市にある同様な施設のパンフレットには、日本語だけでなく、外国語が併記されているものがある。市ではどのようなものを作成する予定なのか。また、館内の各施設における音声の説明などにおいても、外国語に対応したものとすべきではないか。

答 現在作成しているパンフレットは、館内を案内するための簡易的なものであり、外国語表記を含めた多くの情報を掲載することは難しい。音声についても、当面日本語のみの対応となるが、今後の利用者の状況を勘案しながら検討してまいりたい。

結果：全会一致で可決

議案第126号 岩国市文化芸術振興条例

問 基本計画の策定や、文化芸術創造都市宣言を行う上で、財政上の措置を適切に講ずることが必要ではないか。

答 計画に実行性を持たせるためにも、本条例の制定を通じて、市、市民、関係団体との役割、文化の継承・共有、文化芸術活動に対する支援や担い手の育成などが定められるので、それらを推進していく財政的な措置を講ずることとなる。

結果：全会一致で可決

その他、総務常任委員会に付託された事件のうち、議案については、全会一致で可決すべきものと決しました。請願第1号は、引き続き審査することに決しました。



委員長 河合 伸治
副委員長 広中 信夫
委員 小川 安士
片山 原司
重岡 邦昭
長 俊明
藤重 建治
前野 弘明

議会構成の紹介



■ 議長 桑原 敏幸

■ 副議長 石本 崇

	常 任 委 員 会					議 会 運 営 会 委 員 会
	総 務	教 育 民 生	経 済	建 設		
委 員 長	河合 伸治	大西 明子	藤本 泰也	石原 真	阿部 秀樹	
副 委 員 長	広中 信夫	武田伊佐雄	松川 卓司	三原 善伸	山本 辰哉	
委 員 (五十音順)	小川 安士	石本 崇	阿部 秀樹	植野 正則	片山 原司	
	片山 原司	片岡 勝則	貴船 齊	桑原 敏幸	越澤 二代	
	重岡 邦昭	中村 豊	桑田 勝弘	越澤 二代	重岡 邦昭	
	長 俊明	広中 英明	坪田 恵子	田村 順玄	武田伊佐雄	
	藤重 建治	丸茂 郁生	細見 正行	松本 久次	田村 順玄	
	前野 弘明	渡辺 和彦	山本 辰哉	山田 泰之	前野 弘明	
					松川 卓司	
				山田 泰之		

※平成27年11月13日の市議会臨時会で選任されました。

編集後記

改選後一年を迎えた新体制は、今回も一般質問で26人が登壇するなど大変活気に満ちていました。

さて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」もスタートし、各自治体で地方創生総合戦略が展開されています。岩国市議会としても調査特別委員会を中心に、「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて策定されたこの施策への取り組みが、決してトーンダウンしないように今後も行政に対してチェック・提言してまいります。

いわくに市議会だより編集委員会

■ 委員長

桑田 勝弘

■ 副委員長

三原 善伸

■ 委員

貴船 齊

広中 信夫

広中 英明

山田 泰之

山本 辰哉

渡辺 和彦

